

鶴 田 秀 樹



ようやくこの日がやって来ました。昨年は、この伝統ある優秀校東京公演が、史上はじめて中止となり、臍を嚙むような悔しい思いをしたことを思い出します。昨年、全国高総文祭に出場した、演劇・日本音楽・郷土芸能の各部門の高校生たちは、さぞ悔しい思いをしたことと思います。

そして今年。猛暑の中、和歌山では紀の国わかやま総文2021が無事開催され、それぞれの部門で、代表校が選出されました。一方、東京には緊急事態宣言が発出された状態が続いています。しかも、連日新規感染者数が更新されるという、憂慮される状況となっています。今年の優秀校東京公演の開催についても、私たち主催者は大変悩みました。そして、出演する皆さんの安全が担保できるかどうか、今も悩みの中にあります。そのため、今年の優秀校東京公演は、例年とは異なる収録開催という新しい形をとることとなりました。そういう事情から、皆さんの眼前には観客がいません。拍手もありません。皆さんが挑む舞台芸術は、人に観てもらふことにより、大きな飛躍を遂げることができるのは明らかです。観客と一体となって感動を創ることが叶わず、少し残念かもしれません。しかし、それでも私たちは、皆さんに国立劇場の舞台を踏んでほしいと願って、ここまで漕ぎつけました。どうか、その意を汲んで頂き、舞台の向こう側には、いつもより何倍もの人々が観てくれていると、想像を逞しくして精一杯の舞台を創ってくださるよう、心から願っています。

結びに、主催者並びに関係各位に深く感謝申し上げますとともに、皆さんの人生の忘れ得ぬ一コマとなる東京公演となりまますように祈念してあいさつとさせていただきます。